

## 当院における妊婦支援について考える

—クリニカルパスの使用を通して—

Analysis on the support for pregnant woman at Shinshu University Hospital

—Through the use of clinical pass—

信州大学医学部付属病院 産婦人科外来 茅野郁子

### 《要旨》

クリニカルパスを使用することで、患者と医療従事者が共通した療養経過を認識し、患者自身も役割を知ることで治療への積極的な参加意識を期待できる。また外来での導入は患者情報を外来スタッフや病棟と共有できる。妊婦支援に対してもクリニカルパスを使用することでケアの統一、情報交換ができ有効である。

### 《キーワード》

クリニカルパス 妊婦支援 ハイリスク妊婦

#### 1. はじめに

当院産科外来での妊婦健診時のケアや指導は病棟からの応援要員の助産師が曜日毎に担当している。今までは妊婦に対する支援内容について明文化されていなかったため、クリニカルパス（以下C.Pとする）を作成し助産師間で同じ支援を行えるようにした。しかし大学病院としての特性としてハイリスク妊婦が正常妊婦を上回る現状があり、今回作成したC.Pでは合併症や問題点をヴァリエーションとして捕らえても、そのヴァリエーションに対する十分な支援が行われているか疑問として感じていた。看護の質を保証するためにもハイリスク妊婦の個別性も含めケアの統一ができるよう取り組んでいるのでその経過について報告する。

#### 2. 方法

H16.4：病棟助産師と話し合いC.P作成（表1.2）

H16.5：C.P使用開始

H16.9：病棟助産師5名に自記式質問紙を配布

調査内容：・C.Pを使用し妊婦支援しやすかったか

- ・様式は使用しやすかったか
- ・内容について

調査対象：平均経験年数3.4年 平均年齢25歳

H16.11:使用したC.Pの記載内容を振り返り、問題点の把握

H16.12:切迫流早産外来診療計画書作成 (表3.4)

H17.1:切迫流早産外来診療計画書使用開始

<倫理的配慮>

調査対象者には質問内容内容の概略、プライバシーは厳守すること、不参加による不利益はないこ

表1 産科外来診療計画書 妊婦様用 様

	妊婦初期(～20週)	妊婦中期(20週～30週)	妊婦後期(30週～)	1ヶ月健診
目標	妊婦としての自覚をもって生活できるようにしましょう	マタニティライフを楽しみましょう	出産にむけて物品の準備をしましょう 積極的に分娩にのぞめるよう心と体の準備をしましょう	産後経過が順調で自信をもって育児ができるようにしましょう 乳房トラブルなく授乳できるようにしましょう
観察項目	妊婦健診時毎回血圧・体重測定と採尿をしていただきます 医師の診察時、児の発育や異常の有無を確認するため超音波検査を行います 定期健診は、予定日決定後～21週まで4週間に1回、22週～35週まで2週間に1回、36週～毎週になります ・子宮検診を行います ・初期採血を行います	胎動自覚後から、腹囲・子宮底を計測します ・胎動自覚後、骨盤を計測します ・乳頭の形をチェックします ・中期採血(青い紙を使用します)	・37週～児の様子を心拍で観察します(モニター検査) ・乳口が開いているか観察します ・後期採血(緑あるいは黄色の紙を使用します)  確認させていただく事 ・退院後の協力 ・経産婦さんの場合、前回の分娩経過や入院中の上のお子さんの育児協力について	・血圧・体重測定と採尿を行っていただきます ・子宮の様子超音波や内診で確認します ・乳房の状態
保健指導	初診時健診案内をお渡しします。緊急時の連絡方法などご確認ください (妊婦初期の間に以下のことについてご説明いたします) ・妊婦初期の過ごし方 ・つわり時の食事について ・妊婦届について ・マタニティカレンダーについて ・母子手帳について	妊婦中期の間に以下のことについてご説明いたします) ・妊婦中期の過ごし方 ・着帯について ・分娩場所(徳大・他院)の確認と、帰省の場合時期や注意点について ・お産の学級について(25週以降対象)	妊婦後期の間に以下のことについてご説明いたします) ・妊婦後期の過ごし方 ・徳大で分娩される方は入院手続き ・呼吸法 ・乳房マッサージ ・入院の準備 ・入院の連絡方法	今日の健診で異常がなければ普段の生活にもどれます ・育児や授乳について不安があればご相談ください

表2 産科外来診療計画書 助産師用 妊婦氏名 回妊 回産

	妊婦初期(～20週)	妊婦中期(20週～30週)	妊婦後期(30週～)	1ヶ月健診
目標	妊婦としての自覚をもって生活できる	マタニティライフを楽しむ事ができる	出産にむけて心・体と物品の準備ができる 積極的に分娩にのぞめる 母になる自覚がもてる	産後経過の異常がない 自信をもって育児できる 乳房トラブルがない
観察項目	<input type="checkbox"/> 妊婦健診時血圧・体重・検尿・・・毎回 <input type="checkbox"/> 超音波検査・・・毎回 <input type="checkbox"/> 初期採血( / ) <input type="checkbox"/> 記録 <input type="checkbox"/> 合併症の確認( / ) <input type="checkbox"/> 定期健診の説明(予定日決定後4W毎)	<input type="checkbox"/> 妊婦健診(血圧・体重・検尿)・・・毎回 <input type="checkbox"/> 超音波検査・・・毎回 <input type="checkbox"/> 中期採血(青色の紙)( / ) <input type="checkbox"/> 記録 <input type="checkbox"/> 定期健診の説明(22W～2W毎) <input type="checkbox"/> 胎動自覚( / ) <input type="checkbox"/> 骨盤計測 <input type="checkbox"/> 乳頭チェック( / )	<input type="checkbox"/> 妊婦健診(血圧・体重・検尿)・・・毎回 <input type="checkbox"/> 超音波検査・・・毎回 <input type="checkbox"/> 後期採血(緑色or黄色の紙) <input type="checkbox"/> 定期健診の説明(36W～1W毎) <input type="checkbox"/> 37W～NST	<input type="checkbox"/> 血圧・体重・検尿 <input type="checkbox"/> 超音波検査 <input type="checkbox"/> 乳房の状態 <input type="checkbox"/> 育児不安の有無
保健指導項目	<input type="checkbox"/> 初診時健診案内を渡す <input type="checkbox"/> 生活指導(妊婦初期の過ごし方) <input type="checkbox"/> つわりの食事指導 <input type="checkbox"/> 妊婦届の説明 <input type="checkbox"/> マタニティカレンダーを渡す <input type="checkbox"/> 母子手帳の記入について	<input type="checkbox"/> 生活指導(妊婦中期の過ごし方) <input type="checkbox"/> 腹帯について <input type="checkbox"/> 分娩場所の確認(徳大・他院) <input type="checkbox"/> 帰省への説明 <input type="checkbox"/> お産の学級への参加説明(25W以降)	<input type="checkbox"/> 生活指導(妊婦後期の過ごし方) <input type="checkbox"/> 入院申し込み(30W頃) <input type="checkbox"/> 乳房マッサージ(37W～開口の有無) <input type="checkbox"/> 呼吸法・リラクセス法指導 <input type="checkbox"/> バースプラン <input type="checkbox"/> 渡し <input type="checkbox"/> 受け <input type="checkbox"/> ABRの説明 <input type="checkbox"/> 渡し <input type="checkbox"/> 受け <input type="checkbox"/> 入院準備の確認 <input type="checkbox"/> 入院連絡の説明 <input type="checkbox"/> 退院後の協力の有無 <input type="checkbox"/> 経産婦・前回の分娩経過の確認 <input type="checkbox"/> 経産婦・入院時・中の子の育児	<input type="checkbox"/> 生活指導 <input type="checkbox"/> 育児指導 <input type="checkbox"/> 授乳指導
	<input type="checkbox"/> ヴァリアンス ( )	<input type="checkbox"/> ヴァリアンス ( )	<input type="checkbox"/> ヴァリアンス ( )	<input type="checkbox"/> ヴァリアンス ( )

とを口頭にて説明し、同意を得た。

表3 切迫流産・外来診療計画書(妊婦様用)	お名前	様
達成目標	<input checked="" type="checkbox"/> 切迫症状(お腹の張りや出血など)が悪化しないようにしましょう <input checked="" type="checkbox"/> 安静の必要性が理解でき守れるようにしましょう	
検査	□内診・モニター・超音波検査など行います	
治療	<input type="checkbox"/> 安静が必要で…目安として(1. トイレ・洗面以外できるだけ横になる 2. 自宅内家事程度 3. 近くでの買い物) <input type="checkbox"/> 薬物療法(内服できていますか)・・・(ウテメリン 回/日)	
ケア計画	<input checked="" type="checkbox"/> 薬の効果(お腹の張りや痛みがなくなる)や副作用(動悸)についてお聞きします <input checked="" type="checkbox"/> 切迫流産の症状(お腹が張ったり、痛んだりしますか、出血等)についてお聞きします。 <input checked="" type="checkbox"/> 排便はコントロールできていますか…便秘が続くならお知らせください <input checked="" type="checkbox"/> 家での協力体制について(家事を手伝ってくださる方の有無、上のお子さんは?)お聞きします <input checked="" type="checkbox"/> 日常生活の注意点について(重いものを持ちたり、動き回ったりないようにしましょう) <input checked="" type="checkbox"/> 夫婦生活は控えましょう ★緊急時の受診方法について(症状がある時は電話連絡してください) 産婦人科外来37-2793 月～金(8:30～17:00まで) 西4病棟 37-2772 (時間外・土日・祝日)	

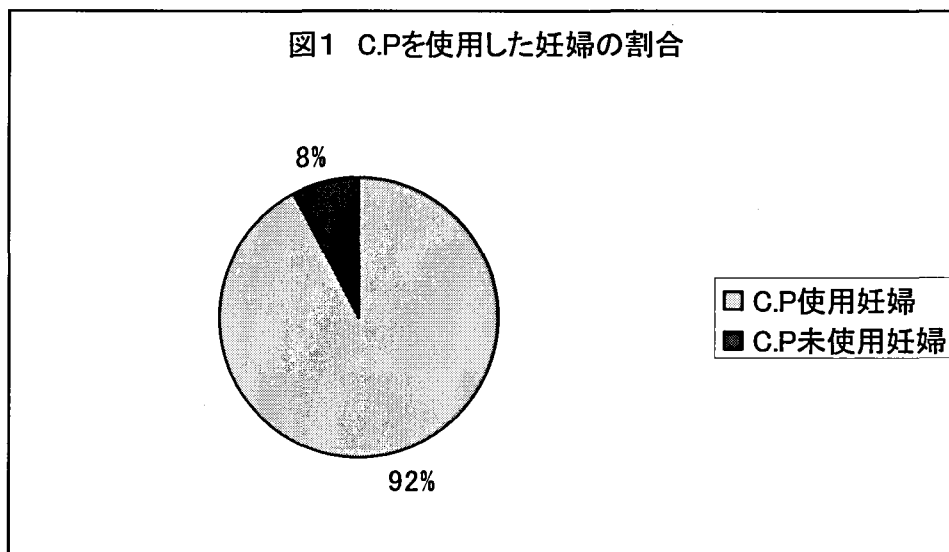


表4 切迫流産・外来診療計画書	妊婦氏名	回妊	回産	EDC		
		月 日	月 日	月 日	月 日	月 日
達成目標	切迫症状が悪化しない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	安静の必要性が理解でき守れる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
検査	内診	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	NST	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	超音波検査	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
治療	安静 1. トイレ洗面のみ 2. 家事可 3. 外出(買い物)可 4. 張りのない程度	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	薬物療法(内服の確認)・・・( 回/日内服)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ケア計画	薬の薬効や副作用について・・・1. 薬の効果の有無	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	2. 副作用の有無	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	切迫流産の症状の有無・・・1. 出血の有無	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	2. 張りの自覚の有無	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	排便コントロール・・・1. 食事	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	2. 内服( )	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	家での協力体制について・・・1. 核家族 2. 祖父母	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	日常生活の注意点・・・1. 説明 2. 確認	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	夫婦生活について	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	緊急時の受診方法・・・1. 説明 2. 確認	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

### 3. 結果

・H16. 5月から11月に産科外来通院妊婦182名中168名にC.Pを使用して妊婦支援を実施した。

(図1)

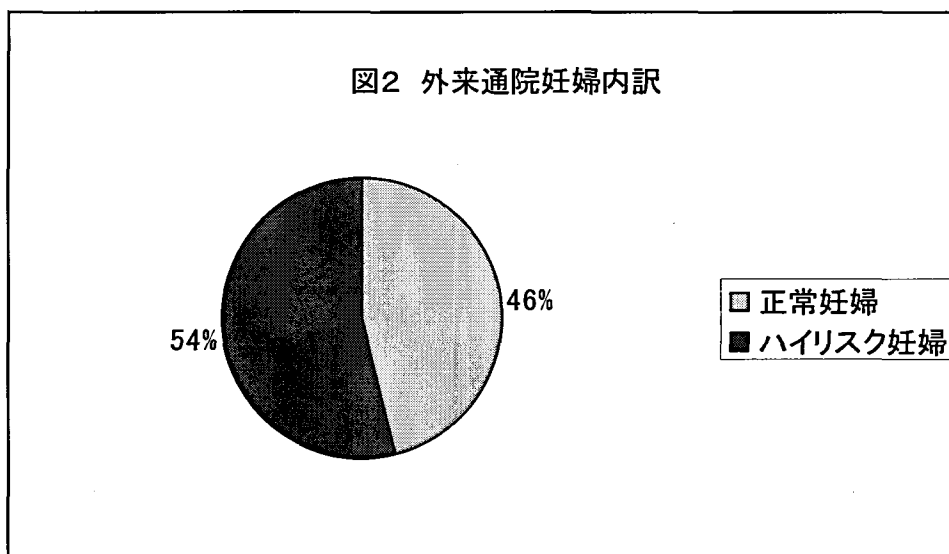


病棟スタッフへのアンケート（C.Pを使用し妊婦支援しやすかったか、様式は使用しやすかったか、内容について）で「忙しい中でも支援すべきことがわかった」「他の曜日の外来に行っても支援しやすかった（3名）」「どの時期に何の支援をするかが明確だった」という結果だった。様式については、「使いやすかった」と答えている。

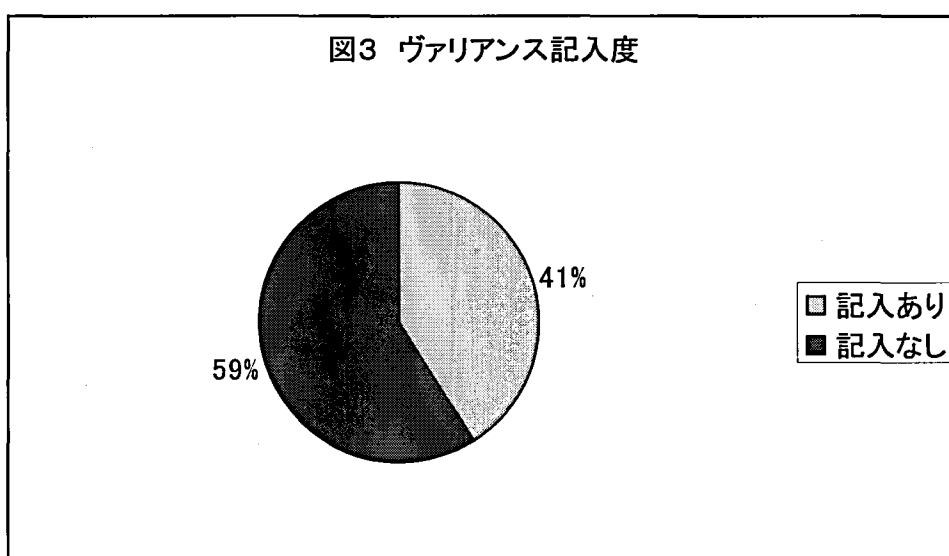
内容については、説明用紙を渡したチェックと記入済み用紙を受け取ったチェックがあるとよりわかりやすいという意見が聞かれた。

また妊婦からの反応としては「お産の学級にいつ参加すればいいですか？」「そろそろ30週なので入院の予約をしたいのですが」等の言葉が聞かれ、実際こちらに質問してくる内容も、より具体的になってきている。

・支援した妊婦168名中正常妊婦78名（46%）、ハイリスク妊婦90名（54%）であった。（図2）



・ハイリスク妊婦 90 名のヴァリアンス記入度は記入ありが 37 名 (41%) で、記入なしが 63 名 (59%) だった。 (図3)



・ハイリスク妊婦の内容としては、産科的なもので切迫流早産、双胎、子宮内胎児発育遅延、前回帝王切開等がある。また母体自身のもつ疾病では、糖尿病、精神神経疾患、子宮筋腫、てんかん等がある。胎児に関連したものは、胎児奇形がある。

・産科的なヴァリアンスとして切迫流早産の症例が多いことから支援計画書を作成し妊婦数名に使用し始めた。切迫症状が悪化せず、安静の必要性が理解でき守れることを目標に生活指導を中心に支援した。

#### 4. 考察

産婦人科外来の看護スタッフは、外来助産師 1 名と病棟からの日替わり応援助産師 2 名の計 3 名

で仕事をしている。外来助産師は受付窓口での事務・相談・電話対応を行い、病棟からの助産師2名で、産科・妊孕科・婦人科の診察介助を行っている。外来へは一日平均約60名が受診し、約25名が産科の患者である。産科外来の診察介助は病棟からの助産師が各自決まった曜日毎に担当しているが、勤務の都合で違う助産師が担当することもあり、どこまで支援されているかわからず重複や落ちがあるという声が聞かれた。また支援内容も明文化されていなかったため、統一した妊婦支援を行うために妊婦支援書を作成した。これを使用することで受付の助産師にも支援状況の把握ができ、朝や診察後気になる妊婦についての情報交換が密に行えるようになった。このように外来スタッフ全体で妊婦支援がしやすく、看護の質の統一ができた。実際、妊婦からも支援書を見ながら質問してくることも多くなり、以前より積極性が感じられるようになった。助産師のアンケートからも一般的な妊婦支援についての内容は充分であった。

しかしその後の見直しにより、予想以上にハイリスク妊婦が多いことが把握できた。そのわりにヴァリエーションの記載が少なく、記入方法など見直す必要性を感じた。そこでヴァリエーションにあがってくる合併症に対してのチェックリストが必要と考え、まず切迫流産早産外来支援計画書を作成した。今まで切迫流産早産患者に対して、診察時に医師が診察・説明した後、助産師が一般的な支援を行っていた。現在数名に使用しているが、助産師の反応としては、「一般的なものにならず支援しやすい」「支援に個別性もてる」「支援に統一感がある」などの声が聞かれた。合併症であるためその原因・病状や治療など個別性が高いが反面、観察や確認が必要な項目はある程度絞られてくると考えられ、今後検討を重ねさらに個別性をふまえた支援書にしていく予定である。

## 5. おわりに

今回外来での妊婦支援としてクリニカルパスを作成したが、大学病院としての特殊性により合併症に対する支援書の必要性の高いことを認識することができた。今後外来助産師の中で十分な連携をとり、それぞれのヴァリエーションに必要な支援計画書を作成することで、より質の高い妊婦支援ができるよう努力していきたい。

## 6. 参考文献

- 1) 高橋秀子他：外来クリニカルパスの作成と実際，外来看護新時代，Vol.10 No.2，13-19，2005
- 2) 長谷川俊彦企画・監修：クリティカル・パスと病院マネジメント，薬業時報社，1998
- 3) 武藤正樹他：クリティカルパス作成・活用ガイド，日総研，1998